



みどり

第496号

公益社団法人
徳島県環境技術センター

発行

徳島市津田海岸町2-33
電話 (088)636-1234(代)
FAX (088)636-1122<https://www.tokushima-env.jp>

令和3年度 第2回 理事会を開催

県環境技術センターは、6月24日(休)午後3時から理事10名、監事2名の役員が出席し、令和3年度第2回理事会を開催した。

理事会は、事務局の川原事業推進部長が定款第40条の定足数に達していることを報告したあと、議長を務める田村会長が議事を進行した。

理事会の議案及び協議・決定事項は以下のとおり。

《審議事項》

議案1 機能保証制度地方審査委員の委嘱について

全浄連浄化槽機能保証制度地方審査委員会の委員の欠員補充にニッコー(株)高橋良太氏を会長が指名し、理事会で承認された。

《協議事項》

議案1 浄化槽ブロワ交換費補助制度について

事務局から提示されたブロワ交換費用補助制度の「広報用パンフレット(案)」に基づき協議した。当制度の導入時期を令和3年10月とし、これにあわせて準備を進めていくことが決定した。

なお、パンフレットについては、内容をもう少し簡潔にし、一目で判断できる内容に修正して次回理事会に提案することとした。

議案2 センター規程の改定(案)について

今年度はセンター関係者が県や市町村の各種委員に委嘱されたが、その委員の待遇等にかかる規程について事務局から提案された。

会員・職員のどちらにも適用できる規程とするため、どの規程に組み入れるかを十分精査する必要があるとの意見があったため、次回理事会に再提案することとなった。

議案3 全自動BOD測定システム導入費用の取扱について

12月に導入されるBOD測定機器の支払方法について協議した。リース、借入のどちらで行うかの判断について、理事がランニングコストを含めた詳細な資料の提出を求めたため、改めて次回理事会に提出することとした。

議案4 今後のセンター運営について

①災害発生時の復旧支援に関する取り組みについて

- 緊急連絡網の確認をはじめとする防災訓練を実施する。
- とくしま浄化槽連絡協議会を通じ、有事の際には業界・行政が共通意識を持って支援活動が出来るよう働きかける。

②とくしま浄化槽連絡協議会への積極的な取り組み

- 会員が最新の情報を共有できるよう、機関誌や文書通知により発信していく。

- 検討課題が生じた際には部会や地区報告会の開催のほか、文書等により会員の意見を取りまとめた上で提案していく。

③所属部会の開催について

- 施工・点検・清掃・メーカー部会を開催し、直面する課題やとくしま浄化槽連絡協議会の検討事項について協議する。

④地区報告会の実施

- 地区報告会を開催し、センターの運営報告や地域会員間の情報交換の場を提供する。

⑤県・市町村への要望活動

- 合併浄化槽への転換促進や維持管理の徹底を図るための要望活動を行う。

議案5 その他について

①令和3年度のセンター車輛の入替え計画について

- 当年度に入替予定の車輛の一覧を提示し、その購入について承認を受けた。

②関係団体からの表彰推薦依頼にかかる候補者の選出について

- 今年度予定される関係団体からの表彰推薦依頼に対し、要件を満たす理事の推薦について承認を受けた。

《報告事項》

1. 会員地区報告会の開催結果について

- 5月に開催した会員地区報告会について、参加状況や協議事項について報告した。

2. 執行理事の業務報告について

- 5/7～6/18の執行理事の業務報告を行った。

3. その他について

①センター土地に賃借する事業所の移転先について

- 購入した土地を賃借している企業の移転先の整備状況を報告した。

②新型コロナワクチン接種時の職員への対応について

- 新型コロナワクチン接種を行う職員に対する、特別休暇等の取扱について報告した。

議長はすべての議案が終了したことを告げ、午後4時滞りなく理事会を閉会した。

浄化槽管理士研修会に関するお知らせ

令和3年度浄化槽管理士研修会は、徳島会場の4回開催に加えて、西部及び県南部でも追加して開催することとなりました。

詳細については、9月中旬頃にセンターから関係事業所に案内状を送付いたしますので、内容を確認の上、ご希望の会場・日程を記入しお申込み下さい。



徳島県 令和元年度 汚水衛生処理率 58.2% に 生活排水未処理人口は31万人

総務省は7月、「令和元年度汚水衛生処理率」を公表した。

令和元年度末における全国の汚水衛生処理率は平成30年度から0.6%増の87.6%となり、汚水処理人口は1億1千90万人となった。

徳島県は、平成30年度から1.5%増の58.2%の結果で、平成24年7月の改正住民基本台帳が施行された以降も全国最下位にあり、全国平均を大きく下回っている。一方、前年度からの増加率では、首位の大分県（1.8ポイント増）に次ぐ、全国2位（1.5ポイント増）となった。今回、60%以下となったのは徳島県と和歌山県の2県であったが、和歌山県は、公共下水道が0.7ポイント減に、浄化槽が1.6ポイント増となったことも、総務省のまとめで分かった。

| | 合計 | 公共下水道 | 集落排水処理 | コミプラ処理 | 浄化槽 | 増加率 |
|-----|-------|-------|--------|--------|-------|------|
| 全国 | 87.6% | 75.5% | 2.3% | 0.2% | 9.7% | 0.6% |
| 徳島県 | 58.2% | 14.1% | 2.2% | 0.7% | 41.1% | 1.5% |

徳島県での処理方式別の内訳は、公共下水道が14.1%（前年度比0.1ポイント増）、集落排水処理施設2.2%（0.1ポイント増）、コミプラ施設0.7%（±0ポイント）、浄化槽41.1%（1.3ポイント増）となった。

県内の処理方式別人口の割合から占有率を見た場合、公共下水道が24.3%になるが前年度から0.4ポイントの減少、集落排水処理施設3.6%で0.1ポイント減少、コミプラ処理1.3%変わらず、浄化槽70.7%で0.5ポイント増加の結果となった。

平成29年度からの人口数を比較すると、公共下水道は751人増、集落排水処理施設は45人減、コミプラ処理140人減、浄化槽は15,000人増となり、浄化槽での処理が一段と拡大しているのが分かる。

今後の汚水処理施設の整備では、地方公営企業等の結果をもとに公表された「汚水衛生処理率」も参考に、効率的かつ効果的な財政支出が期待される。

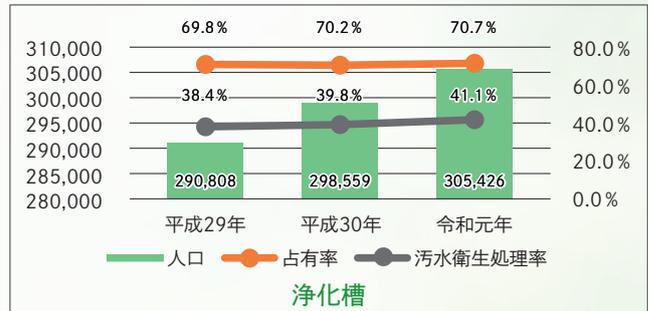
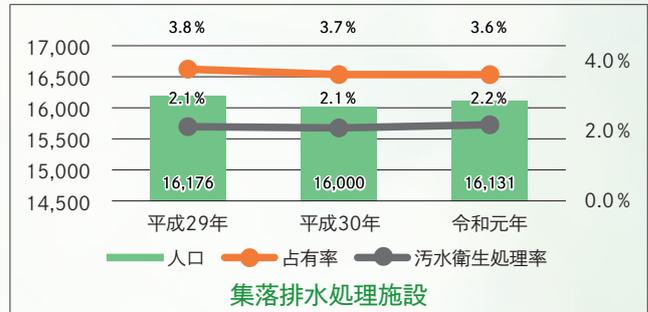
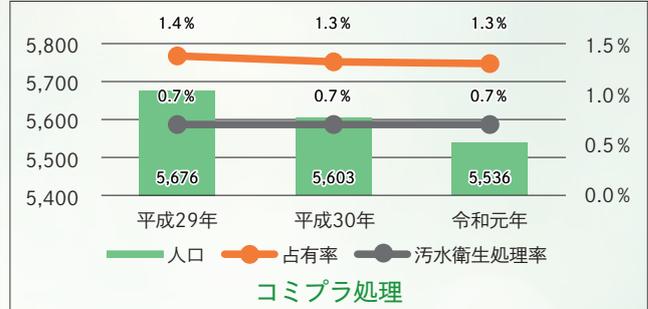
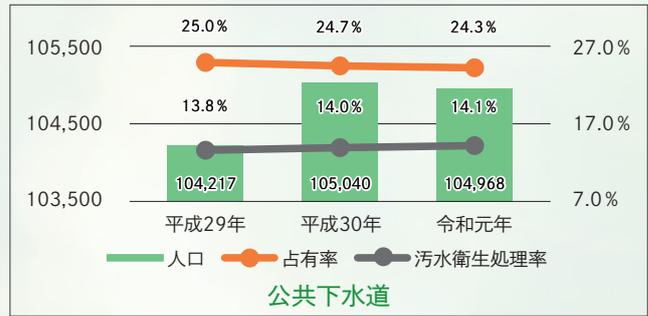
汚水衛生処理率とは

下水道法上の下水道のほか、農業集落排水施設、コミュニティ・プラント（地域し尿処理施設）、浄化槽等により、汚水が衛生的に処理されている人口の割合を表したもので、その算式は次のとおりである。

汚水衛生処理率算式

$$\text{汚水衛生処理率(\%)} = \left(\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{住民基本台帳人口}} \right) \times 100$$

なお、現在水洗便所設置済人口とは、水洗便所を設置・使用している人口であり、下水道等の整備済区域であっても下水道等には接続されていない人口、生活雑排水を処理しない単独処理浄化槽を設置している人口は除かれている。



※人口：各年度の汚水衛生処理人口
 占有率：汚水衛生処理率を100とした場合に各汚水処理施設の占める割合
 汚水衛生処理率：汚水処理施設の人口割合

国土交通省は毎年7月の「河川愛護月間」に合わせ、全国一級河川の水質調査結果（2020年）を、2021年7月1日に発表した。「水質が最も良好な河川」に選ばれたのは、対象となる全国159河川のうち18河川だった。

四国からは、高知県の四万十川、仁淀川の2河川が選ばれた。

また、徳島県吉野川は、「令和2年全国1級河川の水質現況2020」において、きれいな水質を活かした地域活性化特集に『吉野川の食の恵み・スジアノリ』が取り上げられた。

エコアクション 21 交通安全講習会を開催

県環境技術センターは 7 月 1 日(木)、16 時より事業推進部と検査部の各執務室において交通安全講習会を実施した。

この講習会は、エコアクション 21 執行部が企画し、エコドライブの推進とともに、日頃から法人車両 52 台を使用していることから、交通安全の啓発と事故が発生した場合の対応を学ぶことを目的として開催したものである。

講師にはあいおいニッセイ同和損保保険株式会社徳島支店の石川真唯氏を迎え、「事故実態分析報告書」を演題に 30 分ほど講義を行なった。

講習の前半は、当センターが過去 3 年間に保険金処理した事故案件及び支払保険金額について説明があった。これらの案件についての曜日、日別、時間帯別等の事故実態分析が報告された。後半では、事故発生に備えてドライブレコーダーの設置や事故発生時の対処の説明が行われ、運転時の危険予測や行動の注意事項について詳しい説明があった。

これまで、事故の事例から安全運転の啓発に取り組んでいたが、現実には不可抗力の事故もあるため、今回の講習を通じて事故に遭遇した場合の対処法を習得することが出来、大変意義のある講習会となった。



津田公園 パークアドプト清掃活動を実施

県環境技術センターは 5 月 28 日(金)、午後 2 時からボランティア活動の一環として徳島パークアドプト事業を行った。

10 年目を迎えたこの活動は、今回も事前に割り当てられた津田公園内の一部区域の除草・清掃作業。今回は天候にも恵まれ、丁度いい気温の中での清掃作業になった。それでもしばらく放置されていた公園にはびっしりと雑草が生い茂っており、参加した 13 名は約 2 時間汗だくになりながら美化活動に精を出した。

津田公園は近所の住民が朝夕の散歩や親子で遊びに来ている場所で、作業中の合間には散歩している方から「ありがとう」と声をかけて頂くことがあり、この活動の励みとなっている。今後も地域の方達が安心して利用できるよう、この活動を継続していく。

次回の活動は、9 月 17 日に実施する予定である。



雑草以外のゴミはセンターで処分しました

検査部 検査員基礎知識試験を実施

県環境技術センターは 6 月 3 日、検査センター 4 階で「検査員基礎知識試験」を行った。この試験は、精度管理マニュアルの規定で、係長以下の検査員を対象に年 2 回実施している。

試験は、浄化槽に関する知識等の確認が目的であるため、難解ではないが、検査員に必須の情報・技術に関して出題している。

今回は現場業務後の実施であったが、日頃の業務の確認テストとなるため、全検査員が真剣に取り組んだ。

試験後は直ぐに採点を行い、採点結果と解答が渡された。全員合格点であったが、解答を参考にセルフチェックする検査員もいた。

徳島県浄化槽管理士会 令和 3 年度 総会開催

徳島県浄化槽管理士会は 6 月 15 日、県環境技術センターにおいて、令和 3 年度通常総会を開催した。前年度に続き、コロナ感染防止のため書面議決による総会となった。提案された議案はすべて原案通り承認された。今回は役員改選があり、(有)井内清掃井内幸一氏が再度会長に選任された。

| | | |
|-----|-------------|--------|
| 会 長 | (有)井内清掃 | 井内 幸一氏 |
| 副会長 | (有)マルシンクリーン | 眞貝 浩司氏 |
| ” | (有)井内開発 | 井内 孝明氏 |
| ” | (有)徳島化洗 | 神戸 浩一氏 |

浄化槽設備士会 総会開催

徳島県浄化槽設備士会は 6 月 2 日、県環境技術センター会議室において、令和 3 年度書面決議による通常総会を開催した。

提案された議案はすべて原案通り承認された。また、今回は役員改選の年にあたり、北島義治会長と井内孝明副会長が退任し、新たな役員が選任された。

| | | |
|-----|-------------|--------|
| 会 長 | 阿波パーナー商会 | 大森 彦人氏 |
| 副会長 | (株)黒石屋和田金物店 | 和田 敏行氏 |



水すまし隊 活動報告

工作をとおして環境について学ぶイベント「竹のからくりおもちゃを作ろう」が徳島市西新浜町のエコみらいとくしまで開かれ、県内の小学生からおばあちゃんまで幅広い年代の20人が参加し工作を楽しんだ。

今回は水すまし隊から4名が参加し、徳島市の竹林整備の際に伐採された竹を使って「ウサギの餅つき」の製作を指導。参加者は、家族ごとに席につき、セットした竹で作られたパーツを組み立てた。参加者は、耳となる部分を紙やすりで削ったり、目や耳の部分をマジックで色付けするなど、それぞれオリジナルのウサギを作っていた。また、ウサギが交互に餅をつくように、杵の角度、臼の位置を調整するところは苦労していたが、全員無事に組み立て完成。最後に、シールやビーズで装飾するなど、カラフルな竹細工が出来上がった。

近年、『放置竹林による里山の浸食』が各地で問題になっている。竹も木も、環境保護のために“全く切らない・使わない”というのは、良い方法とは言えない。竹はこれまでまったくといって良いほど活用されていなかったが、適度に伐採し、再び資源として利用することができれば、結果として里山を守ることにつながることになる。

水すまし隊では、このように作品作りを通じて、自然環境保護についての活動を続けていきたい。



水質計量便り

～クマムシは生き延びた？～

汚水処理の微生物でも知られるクマムシですが、厳しい環境下に置かれても「乾眠」という仮死状態で生き続ける「地球最強の生物」としても知られています。

そして、新たなクマムシの可能性を検証する為、クマムシを弾に詰めて銃で発射するという実験が行われました。一見、悪趣味な実験のようにも思えますが、れっきとした研究の一環で、クマムシのような生命力の強い生物が隕石などにくっついて宇宙を移動できるのか？について検証しています。

事の始まりは、2019年、月に着陸しようとして墜落した無人月探査機「ベレシート」に、数千匹のクマムシが載せられていたことからです。その後「探査機は墜落したが、クマムシは生きています」という発言をきっかけに、実証実験が始まりました。

具体的には、凍らせて乾眠状態にしたクマムシ数匹をナイロン製の弾に詰めてガス銃で発射。数メートル先の砂に撃ち込まれた弾から取り出して水に浸したところ、秒速900メートル以上では衝撃により内部が損傷を受け、一匹も生き延びることはできませんでした。秒速728メートルでは100%、秒速825メートルでは60%が生存したそうです。結論としては、クマムシは墜落から生き残ることはできなかったと推定されましたが、クマムシがある程度の衝撃なら、他惑星への不時着にも耐えうることを示唆する結果にもなりました。

さらに、今回の実験結果は、クマムシの生存に関わらず、生命が地球上の無機物から自ら進化したのではなく、外界の隕石などに付着したDNAを持つバクテリア類の有機体から発生したとする「パンスペルミア説」に関する可能性を示すそうです。クマムシの衝突実験で、地球の生命の起源についての想像が広がりますね。

by koizumi

事務局だより

法定検査のお知らせ

次の日程で法定検査を実施します。

○11条検査

日程：令和3年8月3日～令和3年8月31日
地区：徳島市、小松島市

○7条検査

日程：令和3年8月3日～令和3年8月31日
地区：鳴門市、松茂町、小松島市、阿南市、阿波市、吉野川市

○那賀町検査(らくらくあんしん協議会)

日程：令和3年8月3日～令和3年8月31日
地区：那賀町全域

○神山町検査(神山町きれいな水づくり協議会)

日程：令和3年8月3日～令和3年8月31日
地区：神山町全域